

1. 授業のテーマと目標

本科目では、学術論文や報告書を英語で書く際に必要となる知識について教科書に沿って講義する。しかし、本講義で得られる知識の応用範囲は英語での論文執筆にとどまらない。例えば、日本語の論文や報告書を書く場合、また論文を読む場合にも有益である。論文執筆のフォーマット、論文審査のシステム、電子ジャーナルを使った論文検索など、論文執筆に関連する事項についても可能な限り紹介したい。

2. 授業の概要と計画

毎週 1 章ずつを目安に講義を行うが、適宜 Appendixes、論文執筆のフォーマット、論文審査のシステム、電子ジャーナルを使った論文検索などにも触れる予定である。

PART I WRITING A PARAGRAPH

- Chapter 1. Paragraph Structure
- Chapter 2. Unity and Coherence
- Chapter 3. Supporting Details: Facts, Quotations, and Statistics

PART II WRITING AN ESSAY

- Chapter 4. From Paragraph to Essay
- Chapter 5. Chronological Order: Process Essays
- Chapter 6. Cause/Effect Essays
- Chapter 7. Comparison/Contrast Essays
- Chapter 8. Paraphrase and Summary
- Chapter 9. Argumentative Essays

PART III SENTENCE STRUCTURE

- Chapter 10. Types of Sentences
- Chapter 11. Using Parallel Structures and Fixing Sentence Problems
- Chapter 12. Noun Clauses
- Chapter 13. Adverb Clauses
- Chapter 14. Adjective Clauses
- Chapter 15. Participial Phrases

Appendix A: The Process of Academic Writing

Appendix B: Punctuation Rules

Appendix C: Charts of Connecting Words and Transition Signals

Appendix D: Editing Symbols

Appendix E: Research and Documentation of Sources

Appendix F: Self-Editing and Peer-Editing Worksheets

3. 成績評価方法と基準

出席（15%程度）、レポート（40%程度）および期末試験（45%程度）により評価する。レポートは、各回の予習内容をまとめたもの、論文の書き方に関すること、論文の検索に関すること、などを取り扱う予定である。毎回出席を取り、3 回以上（予定）の理由のない欠席で単位の認定を行わない。期限に遅れたレポートは受け取らない。具体的な評価の方法については第 1 回目の講義で説明および相談するので必ず出席すること。課題の内容についても希望があれば、提案を歓迎する。

4. 履修上の注意

平成 19 年度前期、平成 20 年度前期、平成 21 年度前期の外国書講読（担当：三古展弘）と同一内容のため、19 年度、20 年度、21 年度の単位認定者は履修登録をすることが出来ない。

5. オフィスアワー・連絡先

講義中の質問を歓迎する。オフィスアワーは設けないが、電子メールによる質問や電子メールでアポイントメントを取った上での質問にも対応する。

6. 学生へのメッセージ

大学院への進学や研究者への道を進もうとしている学生，留学を考えている学生には有益であろう．もちろん卒業論文の執筆にも有益である．なお，本講義は英語を母語としない，また，英語を専門としない教員によって提供されることは予めご承知おき願いたい．

講義では受講者名と通し番号をつけた受講者リストを全員に配布するので，あらかじめ了承しておいてください．

7. テキスト

Hogue, A. and Oshima, A. (2005) Writing Academic English (Fourth Edition), Pearson Education.
(ISBN: 0-13-152359-7)

8. 参考書・参考資料等

特になし．